



2016年11月期 決算説明会

株式会社ラクト・ジャパン

2017年1月20日

1.	2016年11月期業績及び2017年11月期業績予想	P. 2
2.	今後の取り組みと市場環境	P.14
3.	中期経営計画	P.22
4.	(ご参考) 会社概要	P.27

1

2016年11月期業績 及び 2017年11月期業績予想



■ 連結業績

- ▶ 前期比では減収ながら、経常利益・当期純利益はともに増益で着地。期初予想に対しては増収増益を確保。
- ▶ 各事業とも製品市況や為替の影響があったものの、数量増が増益に貢献。

■ 乳原料・チーズ

- ▶ 国際乳製品価格の下落や円高の影響により仕入価格が大幅に下落したことで前期比減収。
- ▶ ただし、逆に価格下落が輸入原料への需要を高め、販売数量は増加。
- ▶ 加えて、当社の強みである優良サプライソースのネットワークを駆使し、仕入コスト管理の徹底を行った結果、単価下落をカバーして利益は前年を上回った。

■ 食肉加工品

- ▶ 前期発生した豚の疾病（PED）や米国西海岸での港湾労働争議の影響が収まり物量が回復、増収を確保。
- ▶ ただし国内の豚肉市況低迷で利益は前期比マイナス。

■ アジア事業・その他

- ▶ 乳原料販売部門では調達力を活かし競争力ある商品の販売が奏功し、販売数量増、外貨ベースでは増益。ただし、国際乳製品価格の下落・円高の影響で円貨ベースの売上・利益はマイナス。
- ▶ チーズ製造販売部門では、シンガポール工場におけるリノベーションによる一時的な生産減や、中国向け販売の減少などにより販売数量が伸びず、減収となった。

2016年11月期連結業績



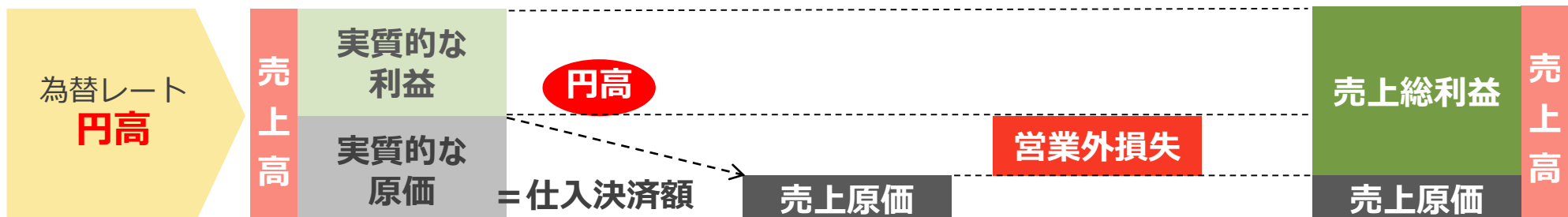
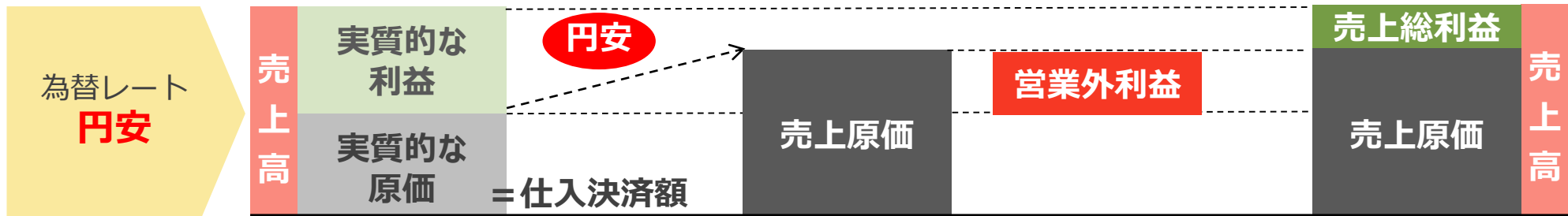
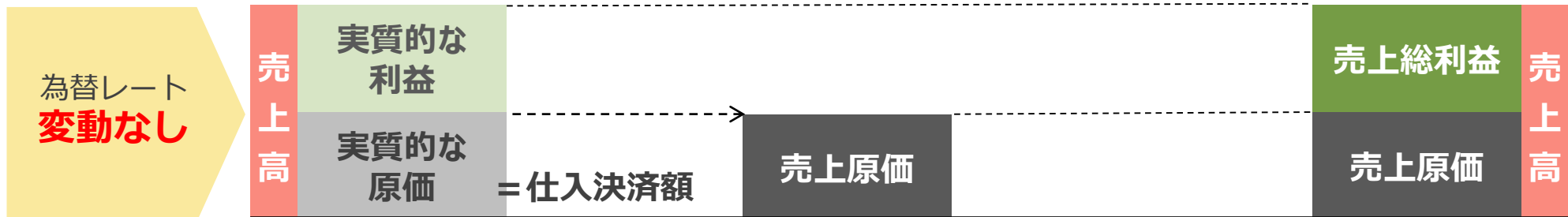
(百万円)

	15.11期 実績	16.11期					
		実績	対前期比 増減額	対前期比 増減率	期初予想	対実績 差額	達成率
売上高	98,000	88,679	▲9,321	▲9.5%	85,140	3,539	104.1%
経常利益	1,343	1,434	90	6.8%	1,080	354	132.7%
売上高経常利益率	1.37%	1.61%					
翌期以降計上予定損益	▲34	266					
親会社株主に帰属する 当期純利益	831	946	115	13.8%	700	246	135.1%
売上高当期純利益率	0.84%	1.06%			0.82%		
一株利益	197.87円	193.57円			143.16円		
為替レート：米ドル ：ユーロ	120.84 135.55	109.33 121.18			— —		

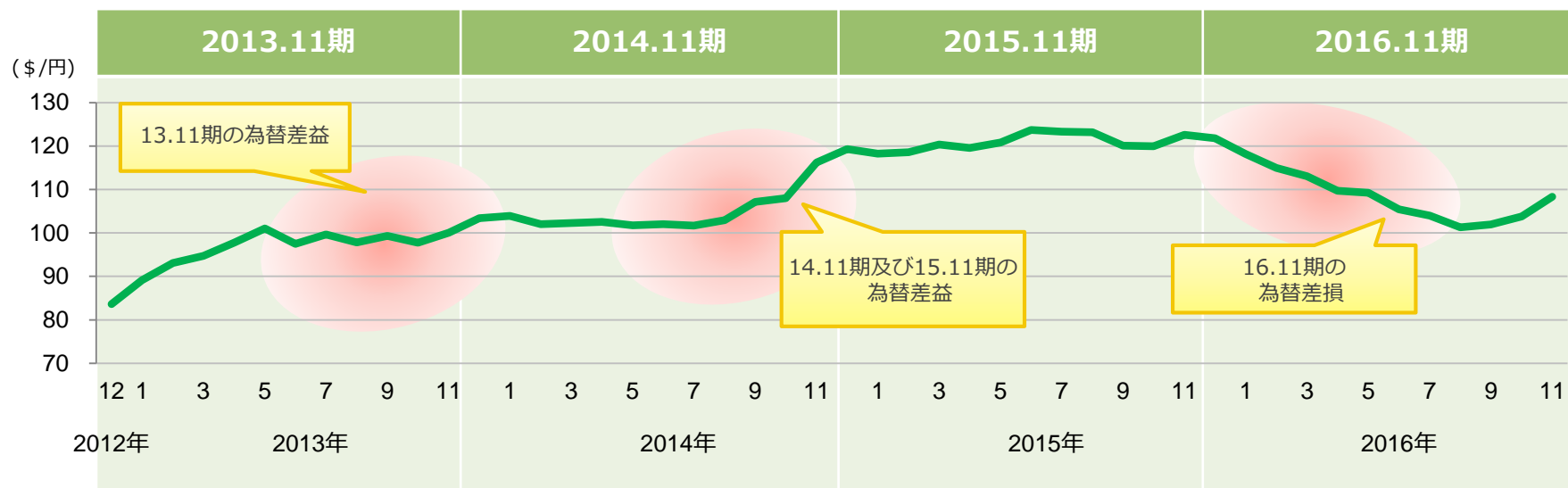
* 各期末時点において、仕入決済が完了し、為替ヘッジにかかる為替差損益が計上されているものの、販売が翌期以降に行われるため、損益の計上が翌期以降に予定されている取引について「翌期以降計上予定損益」として記載しております。

注) 財務数値の表示は端数切り捨て

売買取引のイメージ（為替の影響）



為替レートの推移（スポットレート東京市場終値）



出所) 日経QUICK

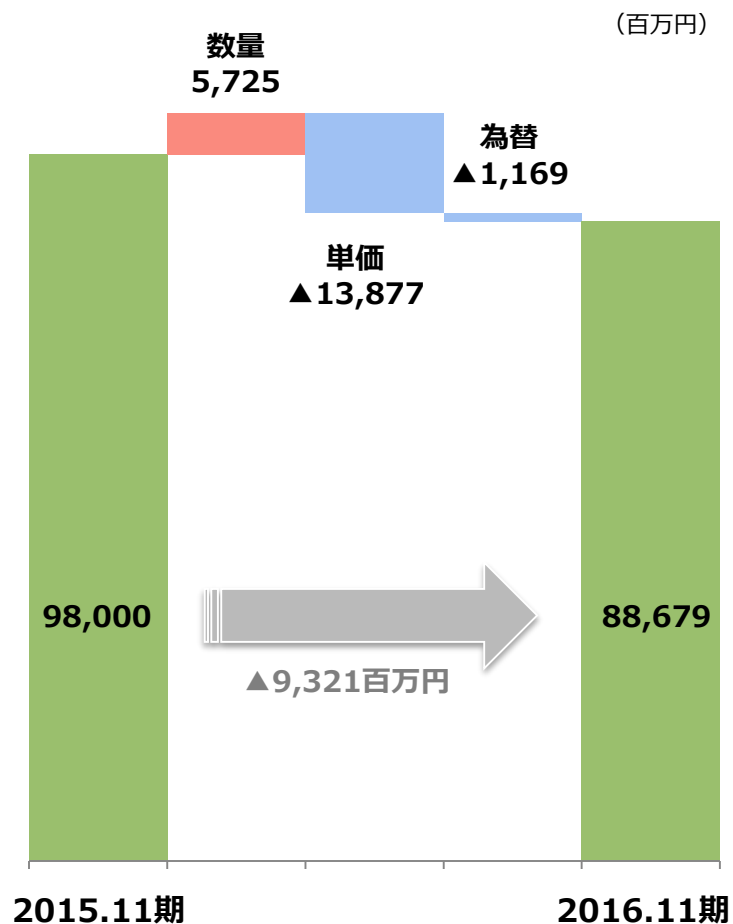
売上高および利益の実績（連結）

(百万円)

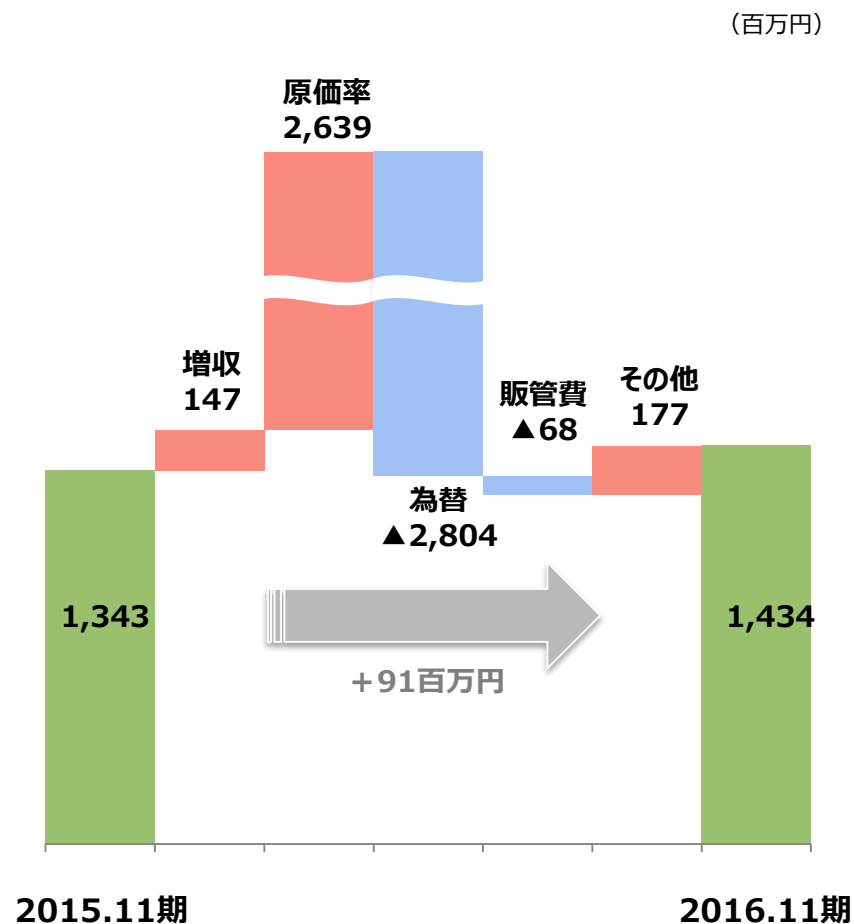
	2013.11期	2014.11期	2015.11期	2016.11期
売上高	75,942	96,549	98,000	88,679
売上総利益	3,258	4,258	3,648	6,345
営業利益	699	1,531	720	3,349
為替差損益	1,188	638	1,052	▲1,537
経常利益	1,669	1,653	1,343	1,434

売上高・経常利益の増減要因分析

売上高（連結）



経常利益（連結）



事業部門別売上高及び販売数量

(単位：百万円)

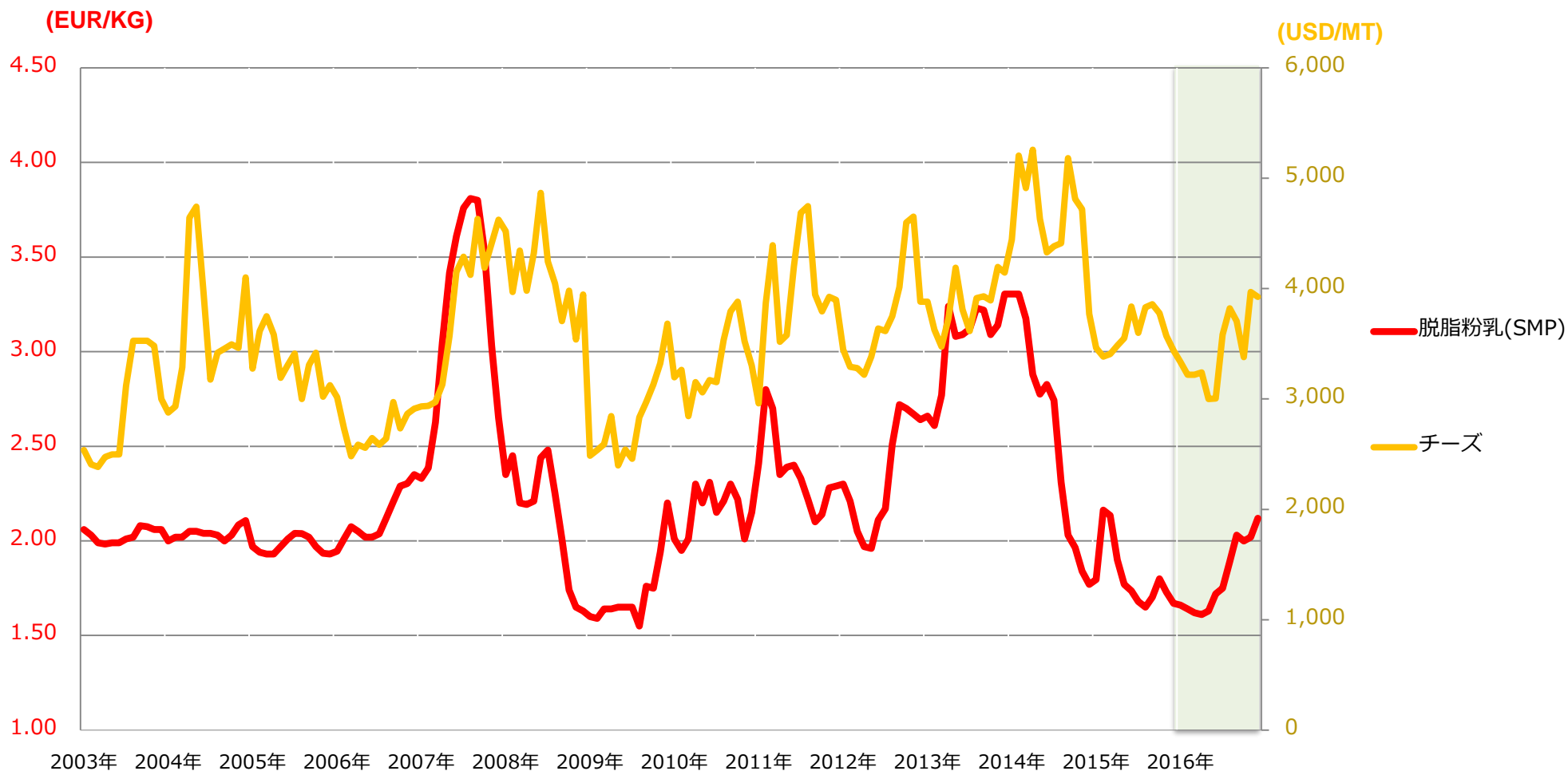
【事業部門別売上高】	2015.11期 実績	2016.11期 実績	増減額	売上高の増減要因
乳原料・チーズ	69,047	60,543	▲8,505	● 国際乳製品価格の下落及び円高の進行に伴う販売単価の下落
食肉加工品	15,449	16,338	889	● 前期に発生した豚の疾病（PED）や米国西海岸の港湾争議の影響がなくなり、通常通りの物量に回復
アジア事業・その他	13,503	11,797	▲1,706	● 国際乳製品価格の下落に伴う販売単価の下落及び円高の進行による円換算売上高の減少 ● チーズ製造販売部門におけるシンガポール工場リノベーションの影響等による販売数量の減少

【部門別販売数量】	2015.11期 実績 (t)	2016.11期 実績 (t)	差異 (t)	増減率
乳原料・チーズ	141,540	148,091	6,551	4.6%
食肉加工品	25,010	28,029	3,018	12.1%
アジア事業（乳原料販売）	34,223	37,472	3,249	9.5%
アジア事業（チーズ製造販売）	1,959	1,912	▲47	▲2.4%

乳原料・チーズ相場（国際市況）

脱脂粉乳：オランダ公定価格 EUR/KG工場前価格（2003年1月～2016年12月）

チーズ：米国CMEチェダー取引価格推移 USD/MT（2003年1月～2016年12月）



貸借対照表

(百万円)

	2015.11期	2016.11期	増減額
流動資産	36,763	35,132	▲1,631
受取手形及び売掛金	12,694	14,278	1,583
棚卸資産	18,496	13,101	▲5,395
固定資産	2,558	2,428	▲129
有形固定資産	697	662	▲35
無形固定資産	95	55	▲39
投資・その他の資産	1,765	1,710	▲54
資産合計	39,321	37,561	▲1,760
流動負債	15,099	12,499	▲2,599
有利子負債	5,601	4,303	▲1,297
固定負債	13,832	13,642	▲189
有利子負債	13,061	12,799	▲262
負債合計	28,931	26,142	▲2,788
純資産	10,390	11,419	1,028
負債・純資産合計	39,321	37,561	▲1,760

主な増減要因

【棚卸資産の減少】

- ・国際乳製品価格の低下及び円高に伴う仕入価格の低下

【有利子負債（流動負債）の減少】

- ・国際乳製品価格の低下及び円高に伴う仕入価格の低下及びそれらに伴う販売価格の低下などによる運転資金の減少

注) 内訳は主要項目のみ記載

キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2015.11期	2016.11期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	2,535	3,560	1,025
投資活動によるキャッシュフロー	▲242	4	247
財務活動によるキャッシュフロー	▲1,476	▲1,655	▲178
現金及び現金同等物の増減額	831	1,736	904
現金及び現金同等物の期末残高	4,031	5,767	1,736

主な増減要因

【営業CFのプラス】

- ・仕入価格の低下により、棚卸資産等が減少したことに伴う、運転資金の減少

【財務CFのマイナス】

- ・営業CFのプラスを有利子負債の返済に充当

2017年11月期 連結業績予想



(百万円)

	2016.11期 実績	予想	2017.11期	
			増減額	増減率
売上高	88,679	87,660	▲1,019	▲1.1%
経常利益	1,434	1,440	6	0.4%
翌期以降計上予定損益	266	—		
当期純利益	946	980	34	3.5%
一株利益	193.57円	200.43円		
一株配当	32円	33円		
配当性向	16.5%	16.4%		

■ 乳原料・チーズ

- 需給調整終了に伴う国際乳製品価格の上昇（単価↑）
- 既存取引の深掘りや新規取引先の開拓などによる販売拡充（数量↑）

■ 食肉加工品

- 一部販売先における仕入方針の変更に伴う取扱数量の減少。（数量↓）
- 国内豚肉市況の回復や付加価値品の取扱い拡充による利益率改善（利益率↑）

■ アジア事業・その他

- チーズ製造部門における取扱製品の拡充（小売り向け製品）及び新規取引先の開拓などによる販売強化（数量↑）
- 需給調整終了に伴う国際乳製品価格の上昇（単価↑）

2

今後の取り組みと市場環境



乳原料・チーズ

- ニーズが高まる輸入乳原料の確実な供給でビジネスを拡大（減少する国産乳原料の着実な補完）
- 生産好調なヨーグルト、アイスクリーム、チョコレート用乳原料の供給拡大
- 飲料向け調製品の拡販（新規顧客の開拓）
- 海外サプライソースの多様化

食肉加工品

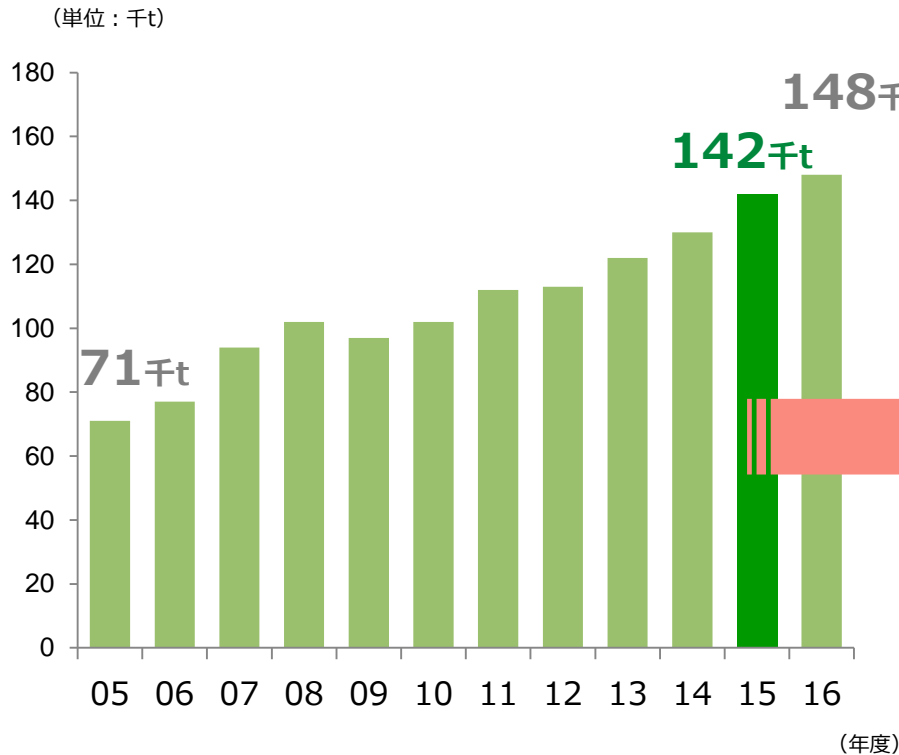
- チルドポークの販売先の多様化
- サプライソースの多様化
- ブランド・チルドポークの開発（輸入ポークの差別化戦略を強化）

アジア事業・その他

- チーズ加工事業の強化（昨年度より生産開始した小売用アイテムの拡販）
- 商品ラインナップの拡充による「ラクト」ブランドの浸透
- タイ工場の本格稼働で生産量拡大
- 現地法人化したオランダ事務所をベースに、乳製品に加え幅広い食品の取扱いに向けたサプライソースの開拓を本格化

国内最大規模の乳製品商社 乳原料・チーズの取扱量はこの10年で倍増、輸入シェアは約30%

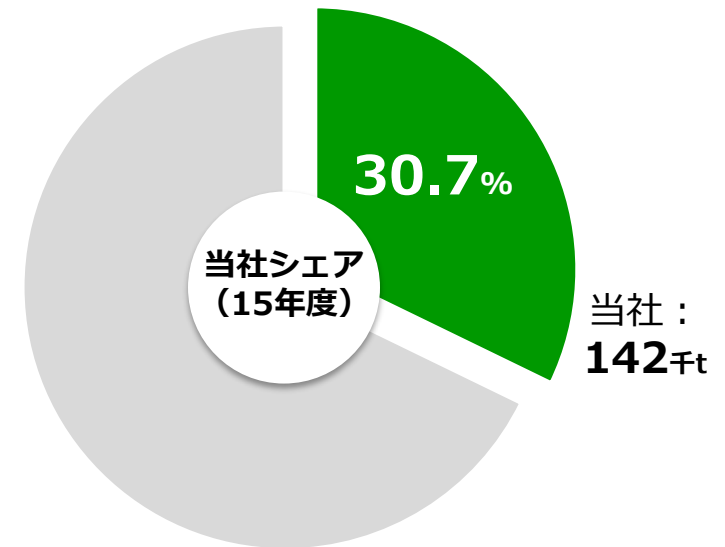
当社の輸入取扱量（乳原料・チーズ）



注) データは固形換算

輸入乳製品に占める当社取扱いシェア

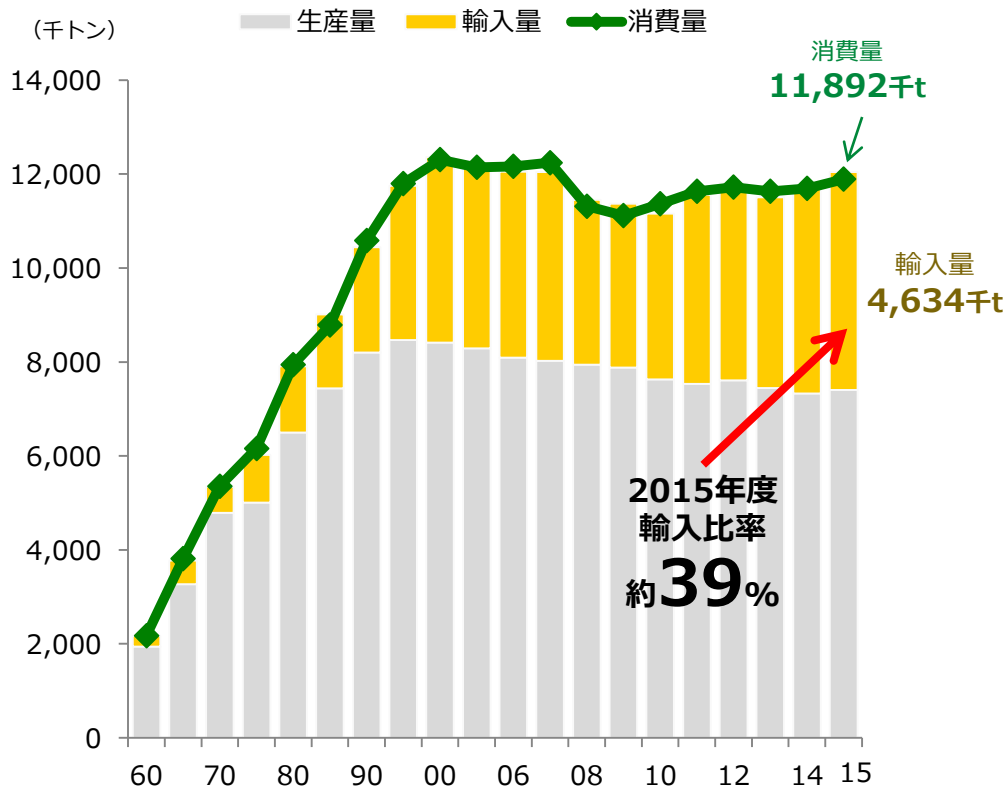
総輸入量 : 463千t (2015年度)



出所) 農水省「食糧需給表」を参照のうえラクト・ジャパン作成
輸入総量を固形換算し (係数0.1) シェアを計算

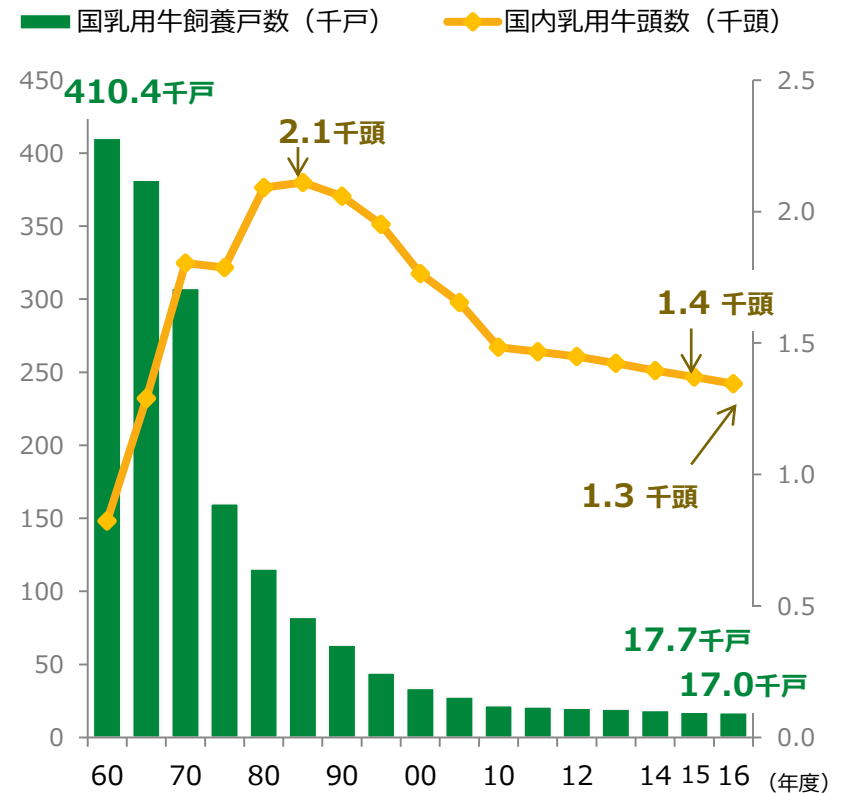
乳製品消費量は高位安定 国内酪農業の生産力低下で輸入原料への需要は高まる傾向

牛乳・乳製品消費量と国内生産・輸入の状況



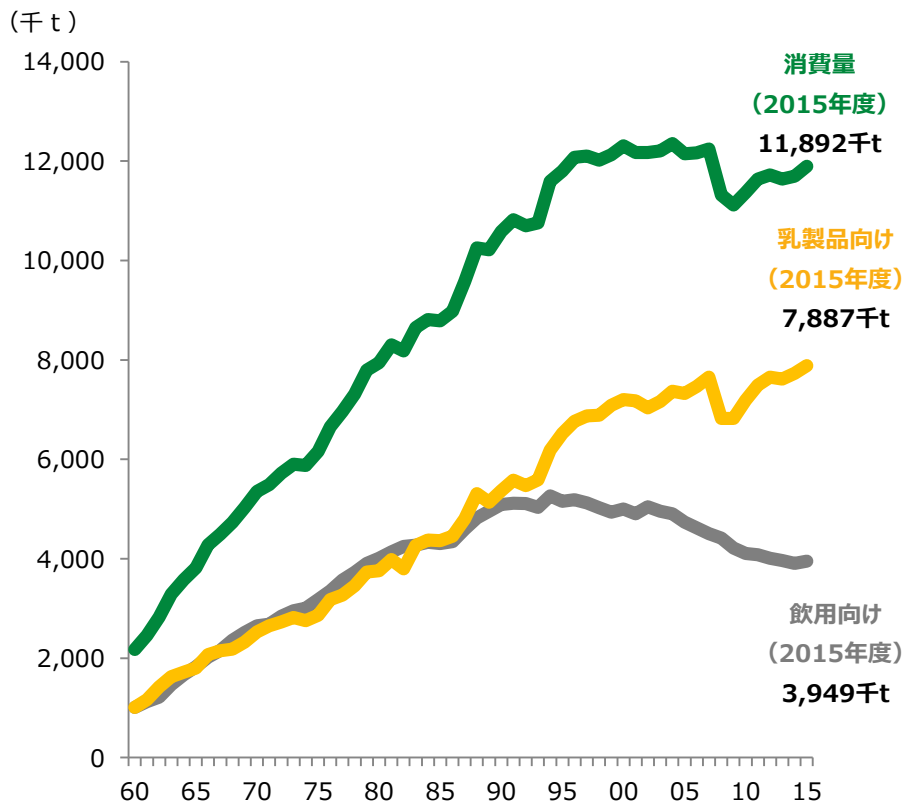
出所) 農水省「平成27年度食料需給表」(概算値)より
注) データは生乳換算

乳用牛飼養戸数・頭数累年統計



牛乳・乳製品消費量は乳製品向けを中心に高水準
一方、国内生産量は低下傾向で輸入原料への需要は旺盛

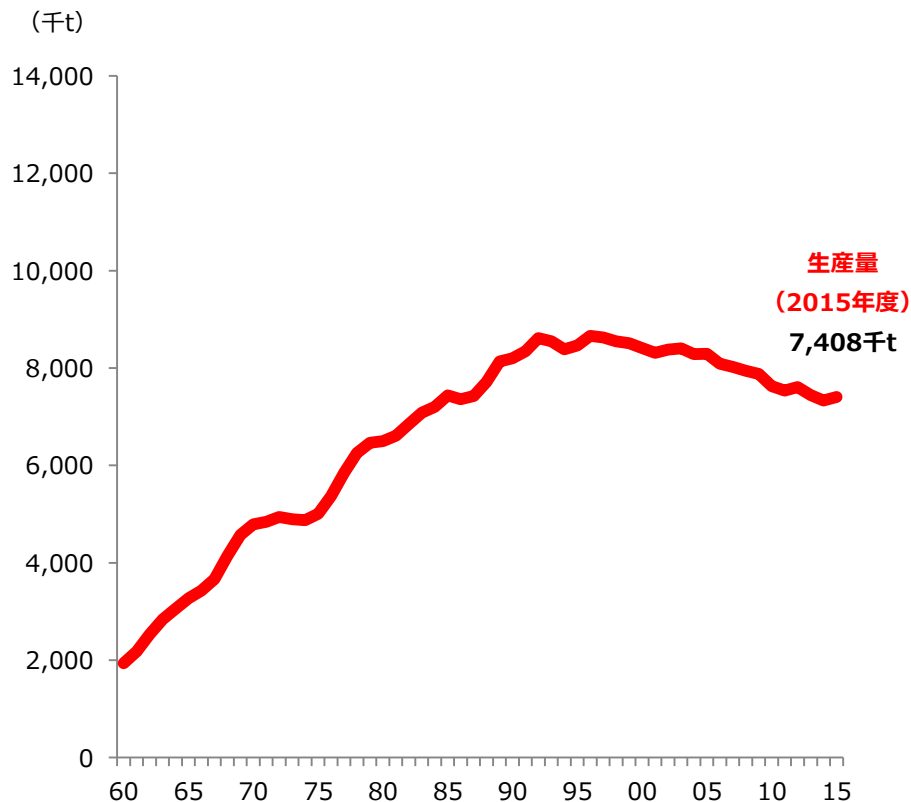
牛乳及び乳製品の国内消費量



出所) 農水省「平成26年度食料需給表」(概算値)より
注) データは生乳換算

(年度)

国内生乳生産量

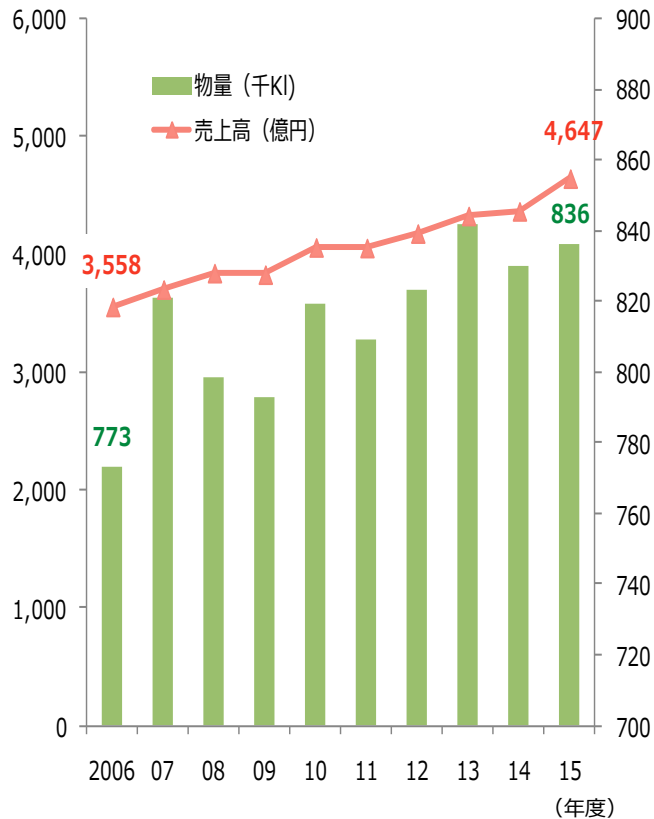


出所) 農水省「平成26年度食料需給表」(概算値)より
注) データは生乳換算

(年度)

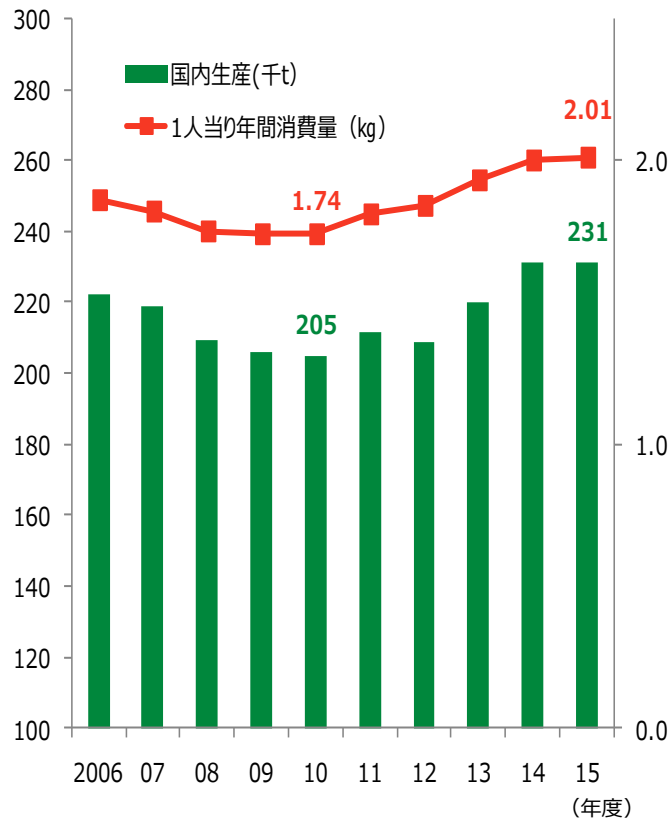
アイスクリーム、チョコレートの国内生産・消費は堅調な伸び

アイスクリーム類及び氷菓販売金額の推移



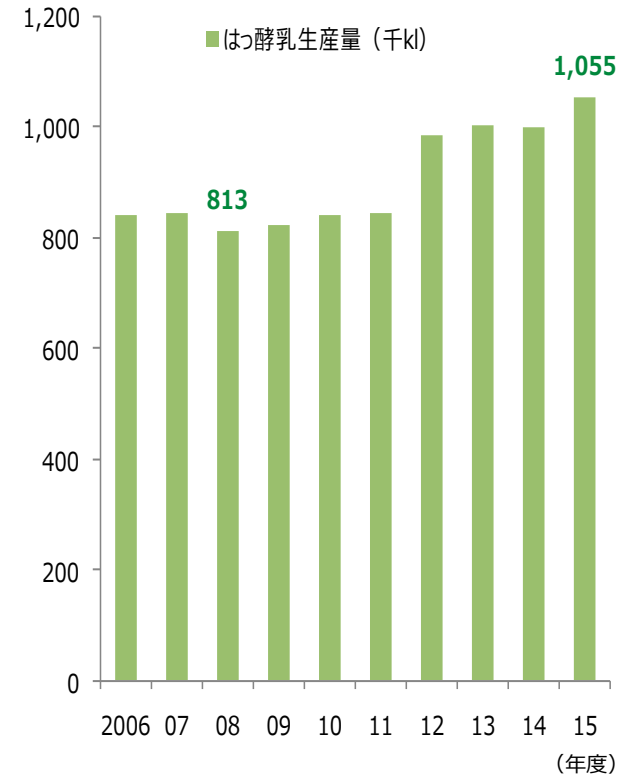
出所) 一般社団法人日本アイスクリーム協会より

チョコレート製品国産・消費推移



出所) 日本チョコレート・ココア協会より
国内生産量・一人当たり消費量は全日本菓子協会の
推定数字による

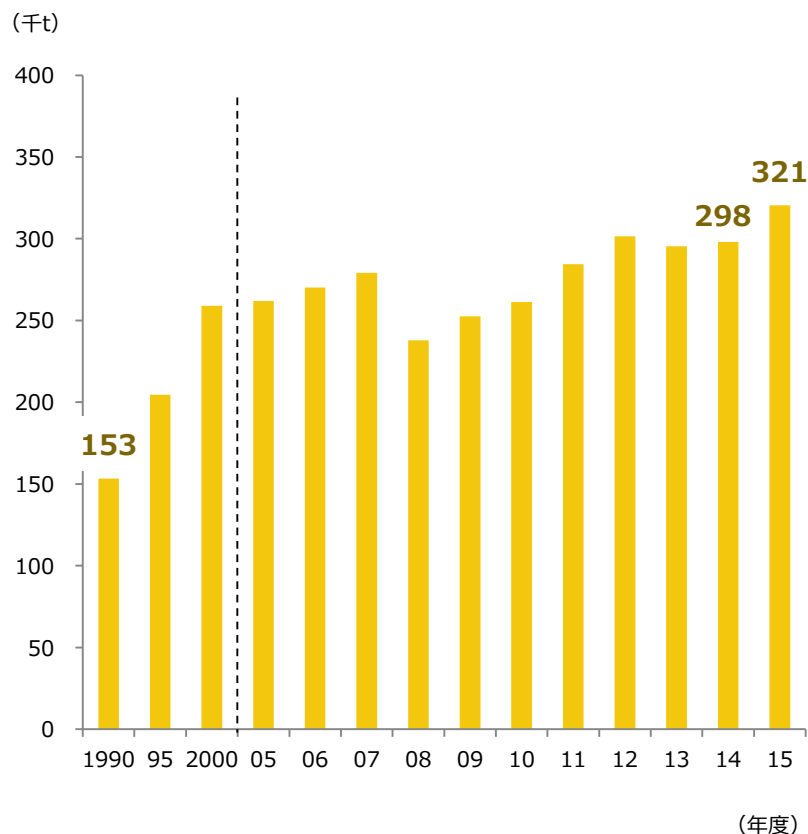
はっ酵乳生産量 (乳業)



出所) 牛乳乳製品統計 (農水省) および
「乳業年鑑」 (日本乳業協会) より

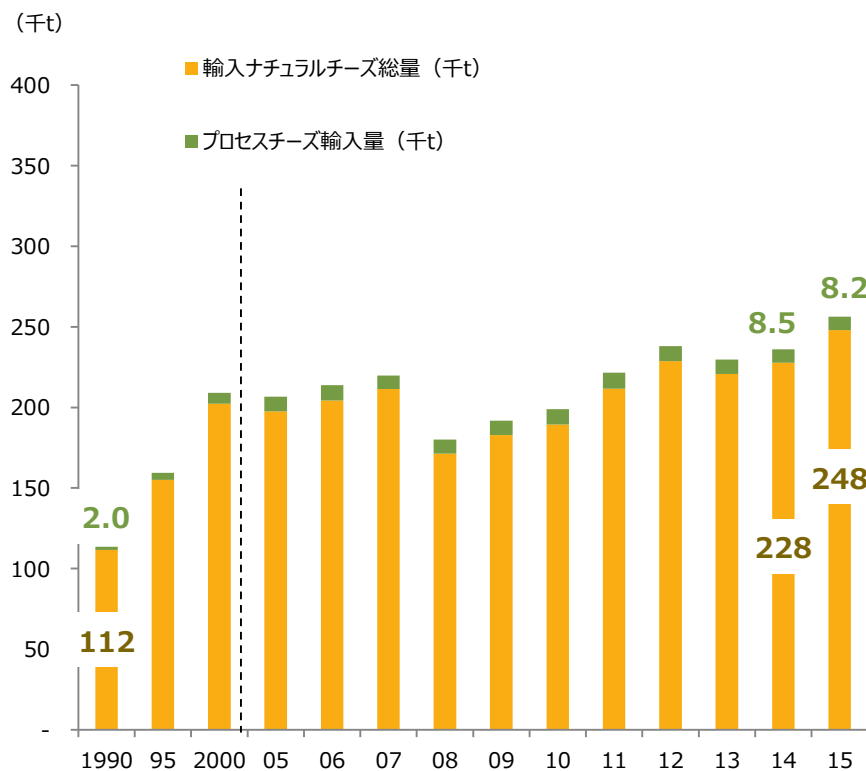
チーズの国内消費量は増加傾向が継続、ナチュラルチーズの輸入量も増加

チーズ総消費量（国内）



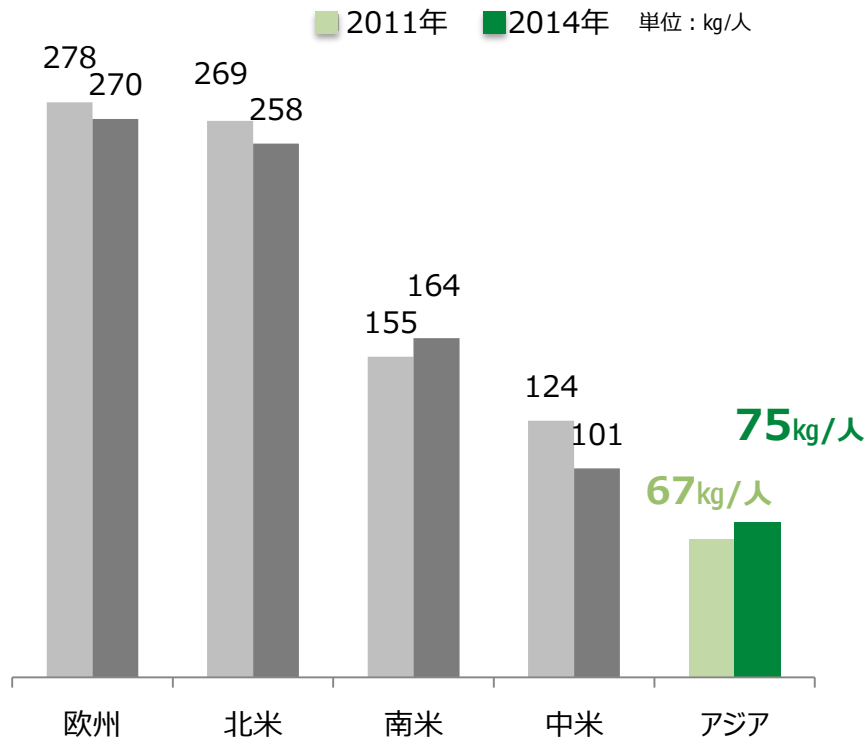
出所) 農水省「平成27年度チーズの需給表」(2016/6/10公表)より

チーズの輸入量



アジアの乳製品市場は黎明期、今後の市場拡大余地は大きい 国内企業のほとんどは未進出

世界の年間乳製品消費量（kg/人、生乳換算）



出所) International Dairy Federation "The World Dairy Situation 2014"

年間チーズ摂取量比較

フランス : **26.7** kg/人

ドイツ : **24.6** kg/人

アメリカ : **15.5** kg/人

日本 : **2.3** kg/人

出所) International Dairy Federation "The World Dairy Situation 2014"

3

中期経営計画



Global Food
Professional Companyとして
消費者の皆様の健康と
食の楽しさを提供

Challenge

乳に関連した
「次世代ビジネス」
の構築

- 事業提携やM&Aも視野に、
既存事業とのシナジーが見込める新規ビジネスを構築

Growth

成長著しい
「アジア」での
事業拡大

- 商品バリエーション拡大
- 「ラクト」ブランドの浸透
- 未進出地域の販売ルート開拓（東南アジア等）

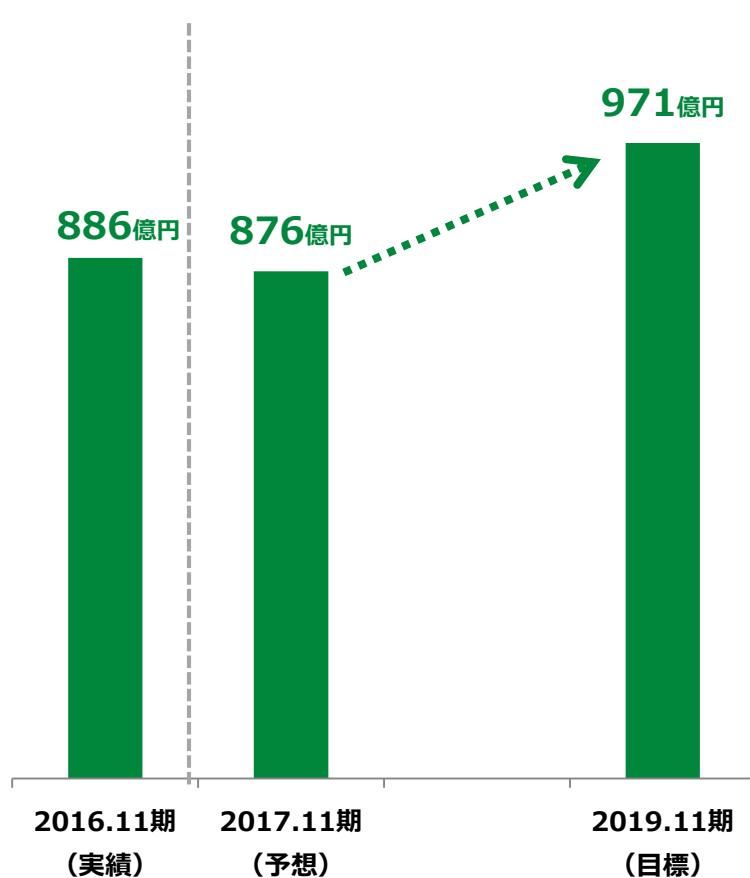
Base

「既存ビジネスの更なる深堀」および
「新規ビジネスの開拓」による
「顧客基盤」の更なる拡充

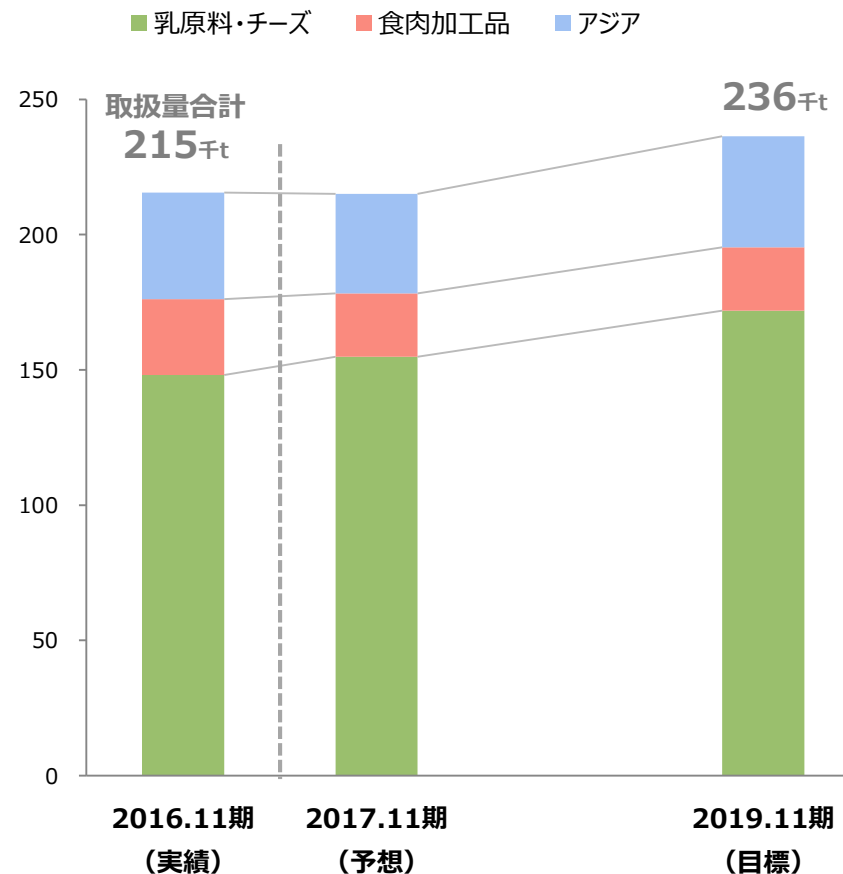
- 仕入、販売先との関係強化
- 新規商品の開発と新規顧客の開拓

国内乳原料・チーズとアジアの取扱数量拡大で着実にトップラインを伸ばす

売上高（連結）

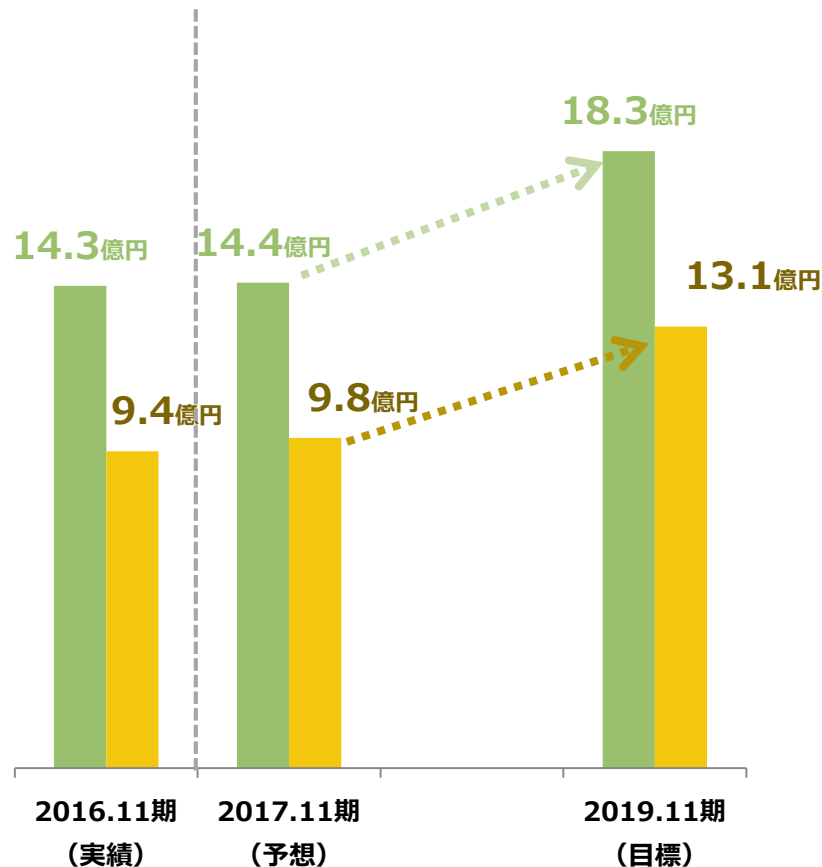


事業ごとの取扱数量の目標

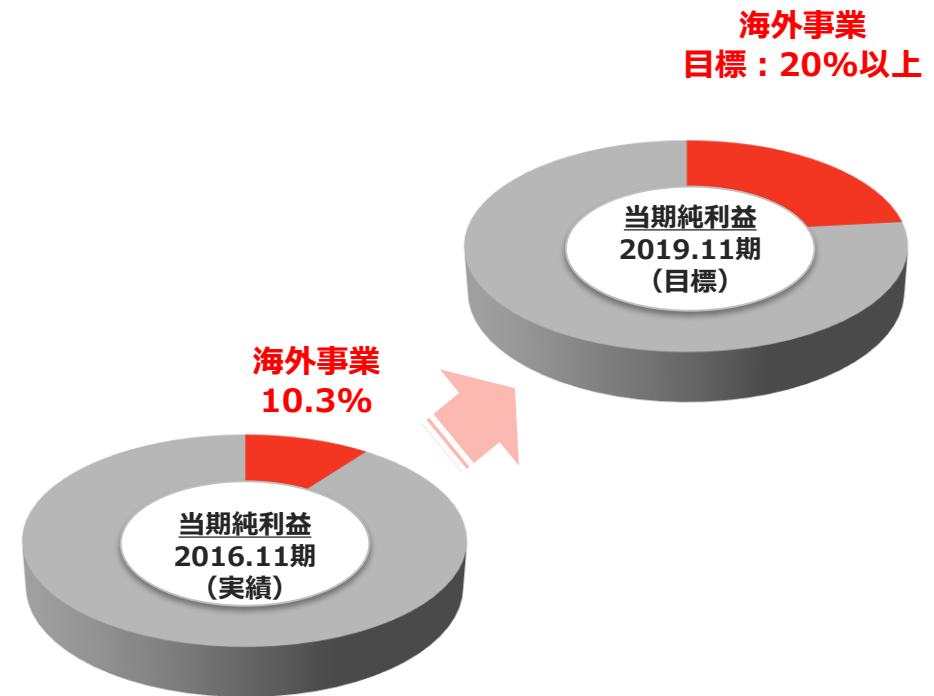


海外事業の拡大が利益成長に貢献

経常利益／当期純利益（連結）



連結当期純利益に占める海外事業利益の比率



継続した事業運営及び成長分野への投資、
さらには収益力強化に向けた事業基盤の強化などのため、
自己資本の充実を図るとともに、株主への利益還元を
最重要政策と位置付け、今後も増配を目指す。

	2015.11期 (実績)	2016.11期 (実績)	2017.11期 (予想)
1株当たり配当金	30円	32円	33円

4

(ご参考) 会社概要



1

乳原料・チーズの専門商社

フルラインの乳原料を取扱うリーディングカンパニー

2

国内随一の規模と調達力

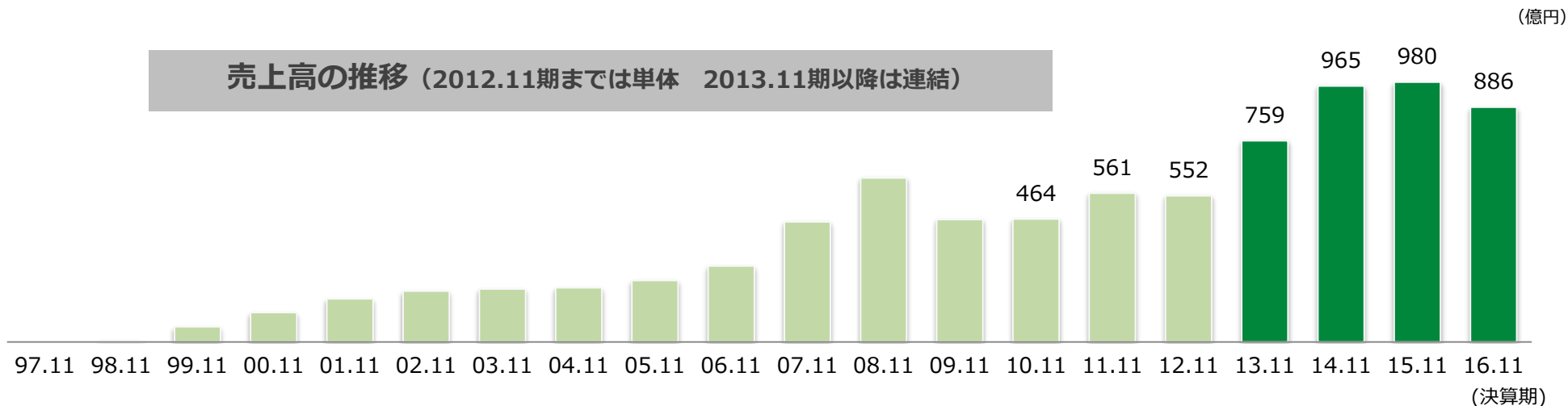
独立系専門商社ならではのビジネスモデルにより差別化

3

黎明期にあるアジアの乳製品市場を開拓

一段上のステージへと更なる成長を目指す

乳原料・チーズをベースに業容を拡大しながら着実に成長



1998年5月：株式会社ラクト・ジャパンを設立、業務を開始

1998年11月：シンガポール駐在員事務所を開設

2005年3月：食肉加工品事業に参入
生ハム・サラミの輸入販売を開始

高い専門性に裏打ちされた情報力・提案力・対応力

- ユーザーニーズに対応したカスタマイズ品を共同開発
- 情報力に基づくサプライヤーとの強固なリレーション
- ユーザーニーズに応じて最適なサプライヤーを選定



- 商品開発ニーズに対応したカスタマイズ品を提案
- 海外でしか入手できない多様な乳原料の提案
- 多様な調達先から、必要な原材料を安定供給

系列に縛られない
戦略的なサプライヤー
245社

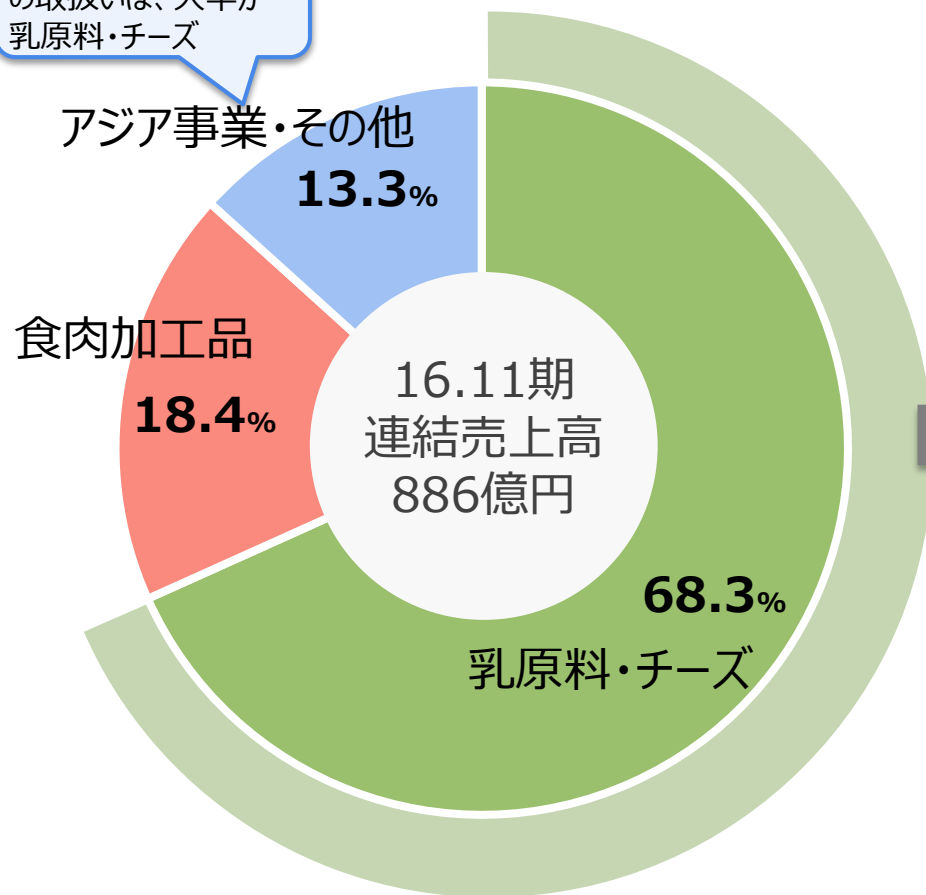


商品開発ニーズの高い
国内ユーザー
(乳業、菓子、油脂、飲料メーカー)

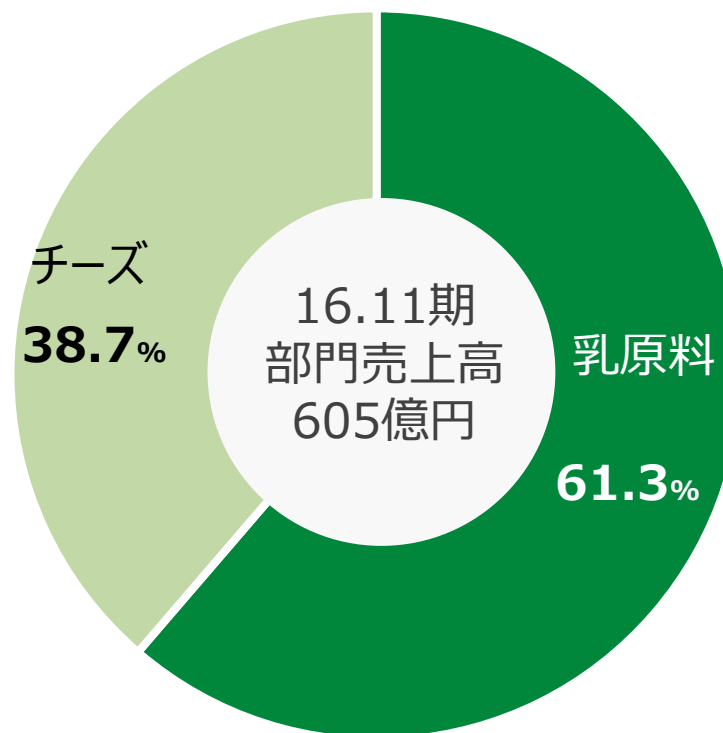


連結売上高 構成比

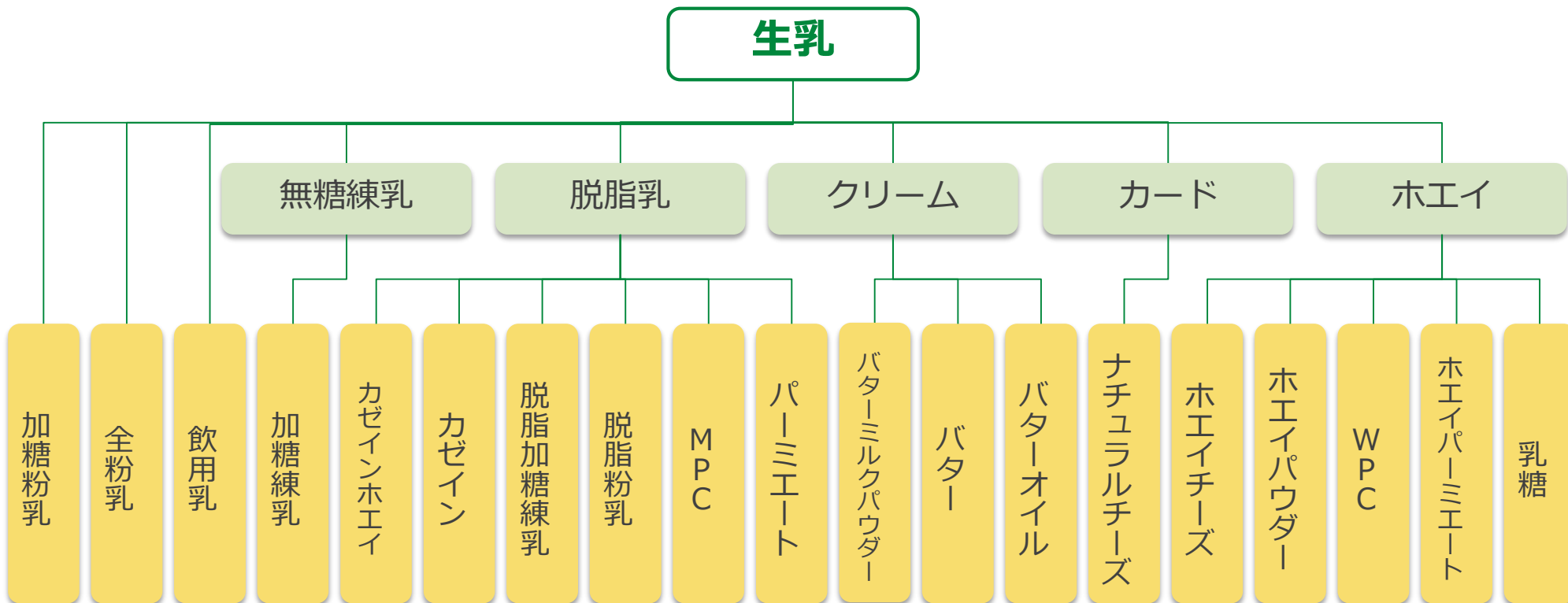
アジア事業・その他の取扱いは、大半が乳原料・チーズ



乳原料・チーズ部門売上高 構成比



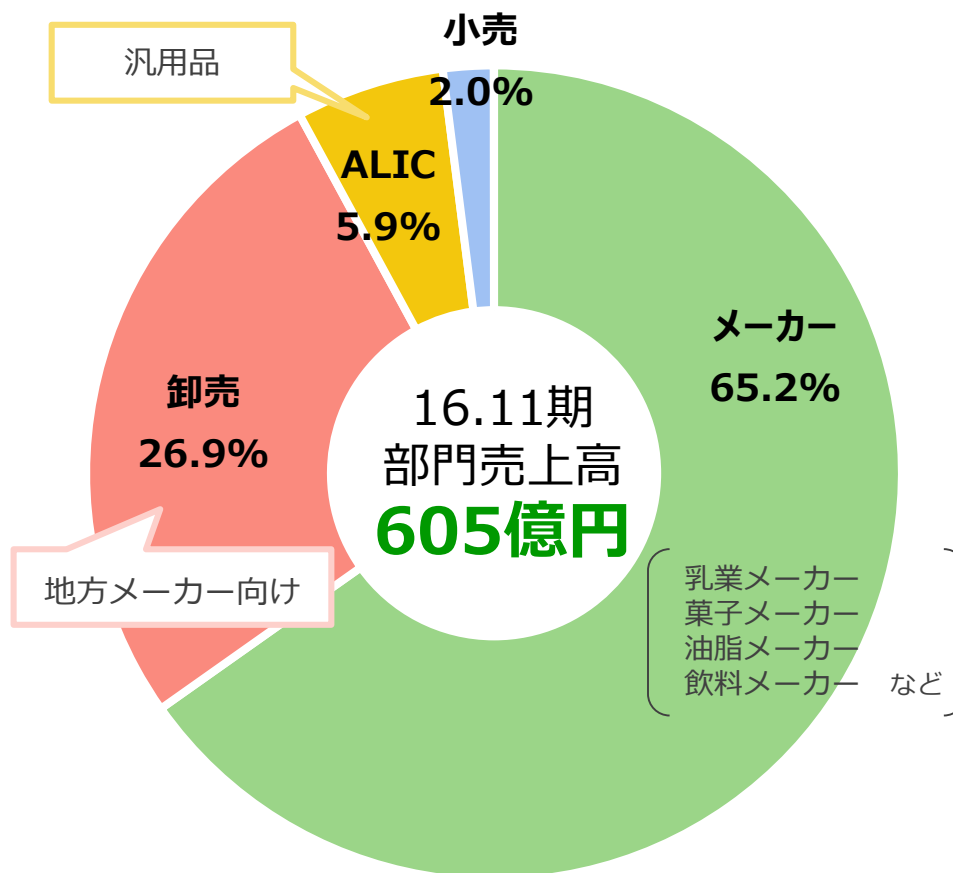
約40種類の汎用乳原料に加え、カスタマイズ品500種類超を取扱う



カスタマイズ品（一次加工品） **500**種超

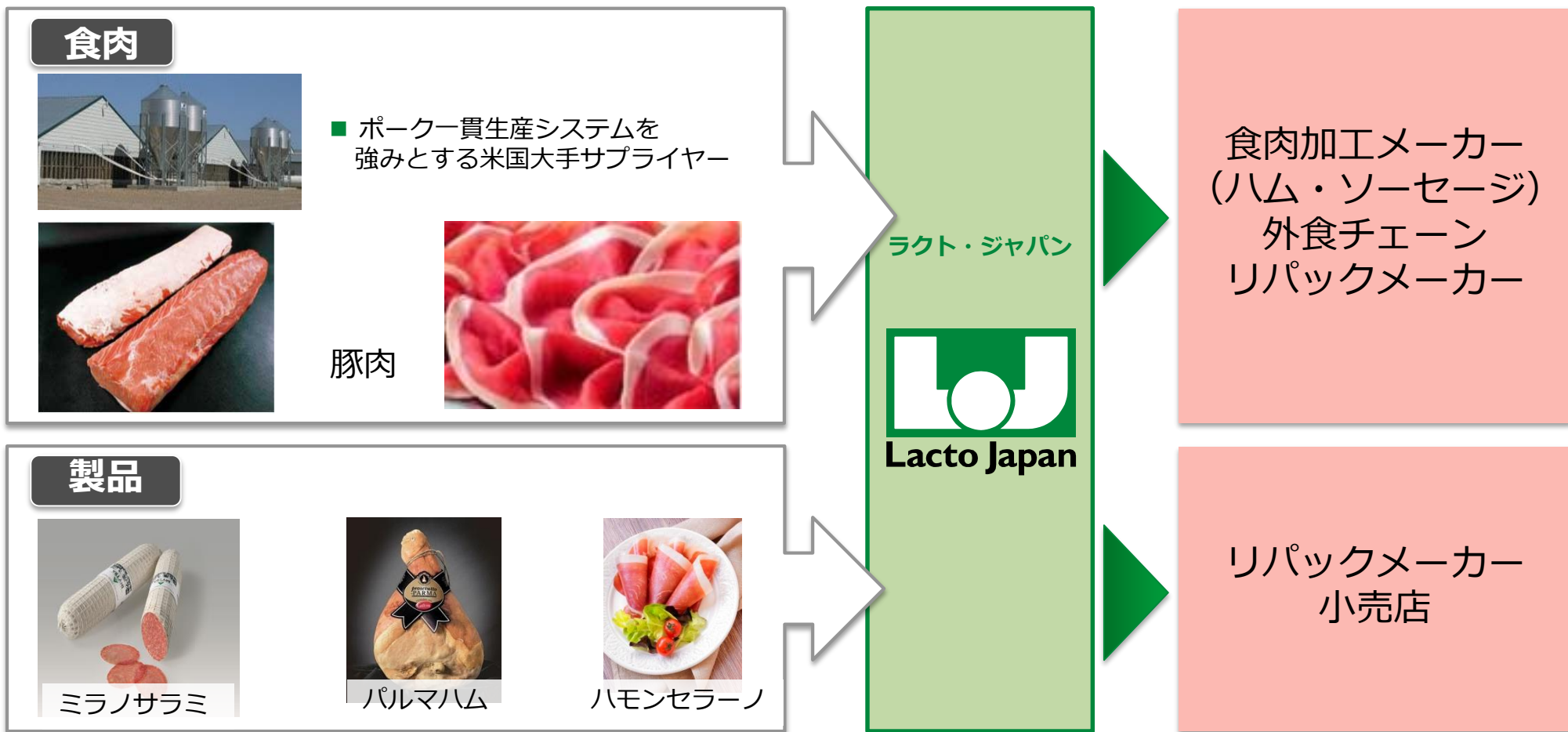
大手メーカーから地方メーカー、小売りまで多様な顧客に販売

顧客業種別売上高構成比（乳原料・チーズ部門）



注) ALIC = 農畜産業振興機構

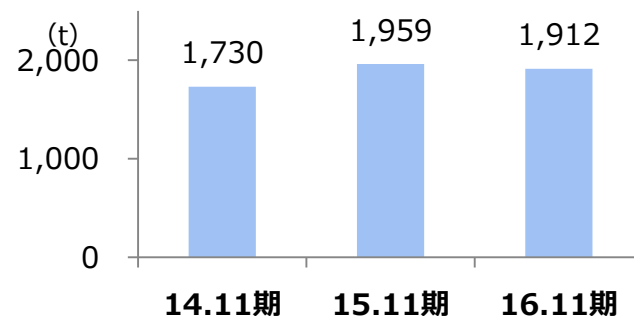
豚肉や生ハムをはじめとする食肉加工品の仕入・販売



シンガポールを製造拠点に、アジア地域に食材としてチーズの供給も

- 創立時から17年の実績
- アジアに進出する日系メーカーには“日本品質”の乳原料・チーズを提供

アジア製造部門販売数量（チーズ）



注) グラフ数値はプロセスチーズとナチュラルチーズの合計
2016.11期はシンガポール工場のリノベーションによる一時生産減少影響あり

Lacto Asia Pte Ltd. シンガポール工場



チーズの過熱・溶融工程



品質検査工程

ブランド

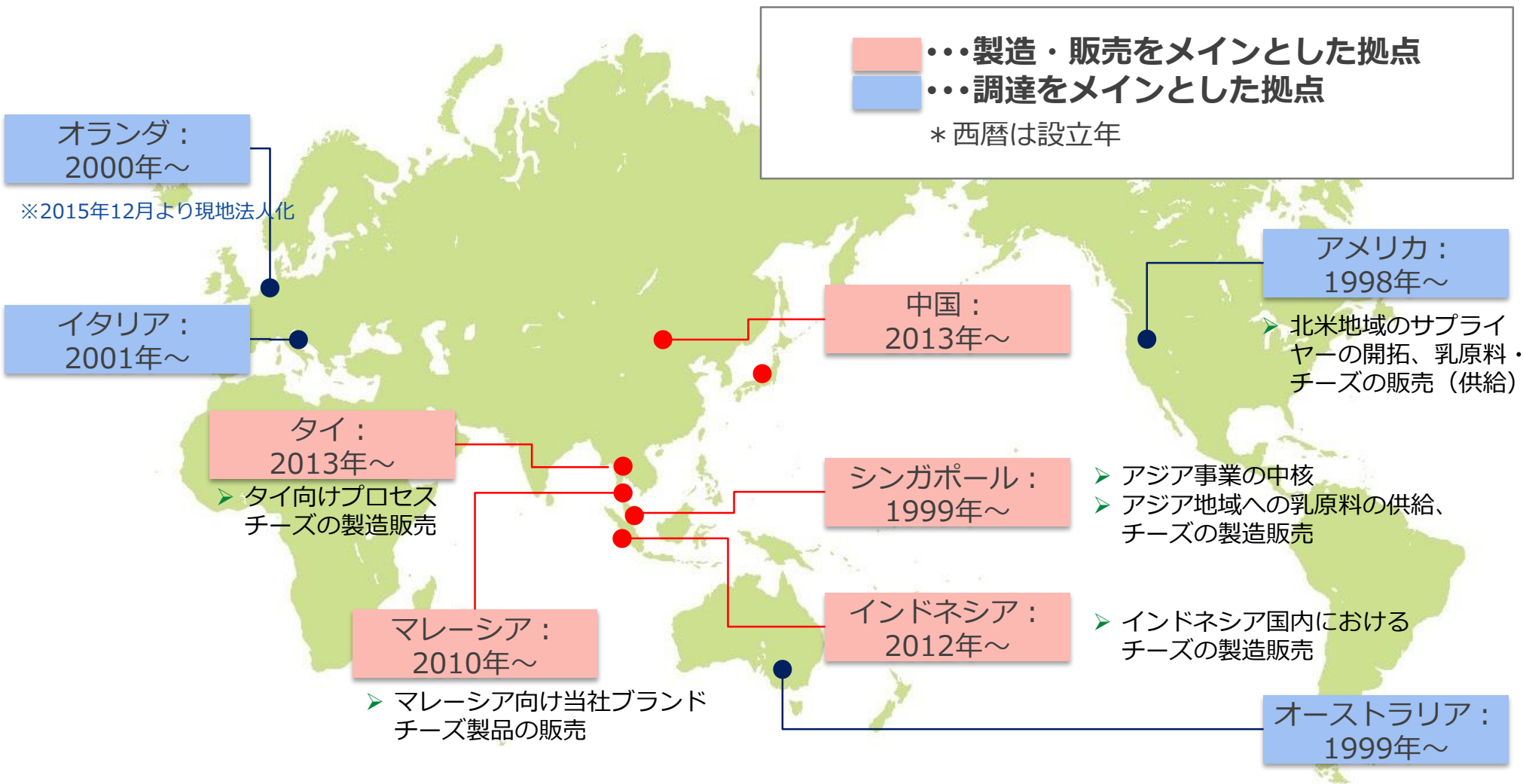


シュレッドチーズ



小売用デザートチーズ

調達から販売まで、グローバルにネットワークを展開



シンガポールを製造拠点に、アジア地域でチーズを供給 拠点の拡充と生産体制の強化

シンガポール：
アジアの生産拠点
1999年～

プロセスチーズの製造
現地メーカーへの販売
(85%はシンガポール外へ輸出)

マレーシア
2010年～

高品質チーズを現地メーカーへ販売

中国
2015年～

現地の日系メーカー等から二次問屋への卸販売

タイ
2015年～

プロセスチーズの製造・シュレッド・販売
今後は乳原料の現地および日系メーカーへの販売も

インドネシア
2015年～

ナチュラルチーズのシュレッド・販売



タイ工場の外観

注) 年号は各拠点における事業の本格稼働年を示す

日本の食文化の輸出により、アジアの乳原料・チーズ市場を創造

ユニークなアプリの提案

日本の食文化をベースとした
食べ方の提案

高い品質

AVA評価^(注)
創業時から10年連続「A」

アジアでの成長の基盤

ハラール認証取得



*AVA (=シンガポールの農食品・獣医局) が年に一度監査し、ISO、HACCPに基づいた食品の衛生・安全管理が徹底されている会社に対して認定するもの。食品だけでなく、製造施設も監査の対象となる。

ご清聴ありがとうございました。

【ご注意事項】

- 本資料には、戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいます。経営環境の変化など様々な要因により、変更されることがあります。